

キャラクター名	プレイヤー名
毒島 燐 (ぶすじま りん)	

シンドローム	ブラックドッグ モルフェウス	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプション		年齢	16	性別	女
覚醒	感染	衝動	恐怖	初期侵食率	35 %
出自	天涯孤独	経験	平凡への憧れ	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	3	1	0	1		5	行動値	7
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	7
精神	1	0	0			1	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2	2	射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
電磁抜拳・震 (レールガン・サケビ)	白兵	10r+6		15		コスト12 1+4+7+8+10 水晶の剣前提
電磁抜拳・輪 (レールガン・アラシ)	白兵	11r+6		35+3d10		コスト16 1+4+7+8+9+10 水晶の剣前提
電磁抜拳・晝 (レールガン・アカツキ)	白兵	13r+8		55+3d10		コスト20(16) 1+4+5+7+8+9+10 行動値0 ポルターガイスト水晶の剣前提
電磁抜拳・貫 (レールガン・トオシ)	白兵	9r+6		15		コスト5 1+4+8 水晶の剣前提

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
アームブレード		ロイス			
アームブレード		対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ
デモンズシード		雷帝	P	N	消費
バトルマニューバ		九十九 幽都	P 友情	N 劣等感	
		綺羅星 凜々	P 友情	N 食傷	
		ゼクス	P 信頼	N 悔悟	
			P 好奇心	N 隔意	
			P	N	
			P	N	
		最大財産P:	2	残り財産P:	

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト	2		-	-	-	-		
効果:	クリティカル値-Lv							
ハードワイヤード	3	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	専用アイテムをLv個常備							
イオノクラフト	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	戦闘移動の移動距離+Lv×2							
アタックプログラム	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	技能:白兵 命中達成値+[Lv×2]							
ポルターガイスト	1	4	マイナー	至近	自身	自動	100	
効果:	選択した武器の攻撃力を加算。シーン後に選択した武器破壊。							
水晶の剣	3	4	メジャー	至近	-	自動成功	-	
効果:	選択した武器の攻撃力+[Lv×2] 1シナリオ3回まで							
ミカヅチ	2	4	メジャー			対決	Dロイス	
効果:	エフェクトを組み合わせた攻撃のダメージロール+3d10 1シナリオLv回 ブラックドッグのエフェクトとして扱う							
砂の加護	3	3	オート	視界	-	自動成功		
効果:	対象の判定ダイス+(lv+1)							
バリアクラッカー	1	4	メジャー	武器	-	対決	80	
効果:	技能:白兵、射撃 1シナリオlv回 装甲無視 ガード不可							
雷神の降臨	4	7	セットアップ	至近	-	自動成功		
効果:	攻撃力+[Lv×5] 行動値0							
シークレットポケット	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	[種別:その他]のアイテムをLv個まで体に隠す。〈知覚〉対抗。							
テクスチャーチェンジ	1	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果:	選択したアイテムの外見を変化。見破りは〈知覚〉同士の対抗。							
万能器具	1	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果:	日用品を作り出すエフェクト。							

水晶の剣 1回使用 攻撃力15
水晶の剣 攻撃力15

夢が島から脱走後、記憶を失い放浪していたところをM市支部長の伊達に保護される。空っぽの器は、オーヴァードとしての戦いや日常の素振りを砂のように吸収していった。余計なものも多分に含めて。

人類を守るためにオーヴァードの力を振るうことに、着実に近づくジャーム化の未来に怯えている。平素の粗暴な振る舞いは怯懦を隠すハリボテのようなものである。

電磁抜拳

あの日、"あの島"にて開眼した『電磁抜刀』——手にした銘刀の"筈"と、幼稚な着想からデタラメに放った即興技であったが、その実、燐は確かな手ごたえを感じていた。
静止しながらにして電速を完成させる『抜刀術』——あれこそが、自分が目指す奥義だと。

刀の術理は身に余る。抜き打つのは拳足で足りるだろう。そして、速度を生むのは、己が肉体ではなく——力(雷)そのもの。
"雷光に四肢を乗せる"不合理な技術の錬磨を経て——ついに開眼した『電磁抜拳』。

構え、右足に稲妻が集う。足裏に生じる磁気力が大地を震わせる。